

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	【施設名称】 バイオマス発電プラント「いいづなお山の発電所」
	【事業主体】 長野森林資源利用事業協同組合
	【所在地】 長野県長野市
	【運転開始年】 平成 15 年
原材料および利用量	建築廃材（70%）、間伐材（20%）、木工加工くず（10%） 合計利用量：15,000 t /年
生産物（種類）	電気（生産量：9,133 千 kw/年間）
利用方法	300kw/hは自社施設で消費、1,000kw/hは電力会社へ売電。
導入目的・経緯	北信地域の林業、建設、製材など7社でつくる長野森林資源利用事業協同組合が建設を進めていた、木質バイオマス発電施設「いいづなお山の発電所」が完成し、平成 17 年 4 月から電力生産を開始した。
設備仕様	燃料供給装置、燃焼装置、排煙処理装置、発電装置:燃焼炉、ボイラー、水冷復水器、スチームタービン発電機 施設処理能力：1,100～1,500kw/h
稼働状況	1日 24 時間 330 日稼働
経済性関連データ	施設整備費 609,000 千円 補助主体：県 補助事業名：平成 15 年度県産材供給体制整備事業
導入効果	発電量は、1 時間当たり 1,300kw/h で、電力の一部 300kw/h は自社施設で消費し、1,000kw/h は電力会社へ売電している。年間にすると（1日 24 時間、330 日稼働）9,133 千 kw/h 分の発電量となり、うち 8,040 千 kw/h 分を売電し、収益を見込んでいる。
運営上の課題	月々の木材チップ量にバラツキがあり、絶対量の確保が難しく、また発電に伴い発生する温水や温熱の再利用が課題。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例